

# 菅氏の八起目

# 脱原発へ「虎の尾」踏み込め



星浩 編集委員

# 政治考



イラスト・郭滋 / The Asahi Shimbun

4日に亡くなった笹森清・内閣特別顧問（元連合会長）は時折、政局についての感想を聞かせてくれた。4月、こんなやり取りをした。

菅直人首相と親しい笹森氏はかつて、菅氏のパーティーで「菅さんは、国政選挙や民

主党の代表選で何度も敗れたけれど、転んでもすぐに起きあがる。七転び八起きという言葉があるが、菅さんはまだ四転び五起きぐらい。これからも何度か、転んで起きるでしょう」とあいさつし、会場

の笑いを誘っていた。それを覚えていたので「首相就任から1年近く。今の菅氏は何回転んで起きたでしょう」と聞いてみたら、答えは「七転び七起きでしょう。最後に起き上がった、もうひとがんばりしなくては」。

菅首相が震災対策に「一定のメド」がつけば辞任すると表明して以来、政権は急速。舞台を降りるのは時間の問題だろう。「最後の一起」をどうするのか。菅氏は思いを巡らせている。

菅氏が最近、周辺に漏らした話だ。側近はこう解説する。「浜岡の停止要請と前後して、菅首相は脱原発のエネルギー政策を打ち出すと明言した。さらに電力会社が嫌う発送電分離にも前向きだ。枝野幸男官房長官は東京電力に出資している銀行の債権放棄に触れた。一連の動きが、電力会社や財界、自民党の神経を逆なでした。原子力の既得権益グループの『虎の尾』を踏んだのかもしれない」

菅首相が震災対策に「一定のメド」がつけば辞任すると表明して以来、政権は急速。舞台を降りるのは時間の問題だろう。「最後の一起」をどうするのか。菅氏は思いを巡らせている。

菅首相が震災対策に「一定のメド」がつけば辞任すると表明して以来、政権は急速。舞台を降りるのは時間の問題だろう。「最後の一起」をどうするのか。菅氏は思いを巡らせている。

菅氏が最近、周辺に漏らした話だ。側近はこう解説する。「浜岡の停止要請と前後して、菅首相は脱原発のエネルギー政策を打ち出すと明言した。さらに電力会社が嫌う発送電分離にも前向きだ。枝野幸男官房長官は東京電力に出資している銀行の債権放棄に触れた。一連の動きが、電力会社や財界、自民党の神経を逆なでした。原子力の既得権益グループの『虎の尾』を踏んだのかもしれない」

菅氏が最近、周辺に漏らした話だ。側近はこう解説する。「浜岡の停止要請と前後して、菅首相は脱原発のエネルギー政策を打ち出すと明言した。さらに電力会社が嫌う発送電分離にも前向きだ。枝野幸男官房長官は東京電力に出資している銀行の債権放棄に触れた。一連の動きが、電力会社や財界、自民党の神経を逆なでした。原子力の既得権益グループの『虎の尾』を踏んだのかもしれない」

菅首相が震災対策に「一定のメド」がつけば辞任すると表明して以来、政権は急速。舞台を降りるのは時間の問題だろう。「最後の一起」をどうするのか。菅氏は思いを巡らせている。

菅首相が震災対策に「一定のメド」がつけば辞任すると表明して以来、政権は急速。舞台を降りるのは時間の問題だろう。「最後の一起」をどうするのか。菅氏は思いを巡らせている。

菅氏が最近、周辺に漏らした話だ。側近はこう解説する。「浜岡の停止要請と前後して、菅首相は脱原発のエネルギー政策を打ち出すと明言した。さらに電力会社が嫌う発送電分離にも前向きだ。枝野幸男官房長官は東京電力に出資している銀行の債権放棄に触れた。一連の動きが、電力会社や財界、自民党の神経を逆なでした。原子力の既得権益グループの『虎の尾』を踏んだのかもしれない」

菅氏が最近、周辺に漏らした話だ。側近はこう解説する。「浜岡の停止要請と前後して、菅首相は脱原発のエネルギー政策を打ち出すと明言した。さらに電力会社が嫌う発送電分離にも前向きだ。枝野幸男官房長官は東京電力に出資している銀行の債権放棄に触れた。一連の動きが、電力会社や財界、自民党の神経を逆なでした。原子力の既得権益グループの『虎の尾』を踏んだのかもしれない」

っている。

はたして菅氏は脱原発の流れを一気に進めるのか、中途半端に終わってしまうか。菅氏の周辺では「思い切った脱原発を打ち出し、既得権益勢力と戦うべきだ」（辻元清美首相補佐官）といった意見が出ている。市民運動出身の菅氏だからこそ自民党や官僚、財界が進めてきた原発推進路線を転換できるというのだ。

一方で「原発問題の本格的な検討は次の政権に委ねるべきだ」という慎重論は民主党内でも根強い。

ここは、勝負どころだ。首相の座を去る前に、脱原発へ強いメッセージを出してはどうか。七転び八起きの「八起目」で、思い切り「虎の尾」を踏み込んでみるのも一つの決断だと思う。